



19 萬歳楽 森村宜稲 二曲一隻

大正五年（一九一六）絹本金地着色
一六九・六×一七五・六

本図は大正五年（一九一六）日本美術協会第五十五回展覧会に出品され、銅牌を受賞し、大正天皇の展覧会行幸の際に御買上となった作品。川に浮かんだ龍頭の船上で、童による舞楽を堪能する、王朝人の雅な船遊びの様子が描かれている。船の上で舞楽を行う船楽は、『紫式部日記』や『源氏物語』などに貴人を迎える奏楽として行われていた様子が記されている。本図も顔を御簾で隠すという伝統的な貴人の描写表現が用いられていることから、天皇などの高貴な人物が船上にしていることがうかがえる。

作者の森村宜稲（一八七二～一九三八）は名古屋に生まれ、郷土の絵師木村雲溪に師事した後、日比野白圭についてやまと絵を教わった。日本美術協会を中心に活躍し、その後文展、帝展にも出品したが、終始一貫してやまと絵師として古典的な王朝風俗を描き続けた。本図の画面左半分は、下から上まで視線を遮るように前景に松を大胆に配置する。その樹間から遠くのきらびやかな船遊びの様子が垣間見えるという構図には、伝統的な画題を形骸化させずに新味を出そうとする宜稲の工夫がうかがえる。松の幹の縦線とS字を描く河川のゆるやかな曲線を交差させて、二曲屏風という正方形に近い整った画面に変化をつけようとしている点も巧みである。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanjūmaru Shōzokan